

司書課程行事報告

陸前高田市ボランティア参加動機

陸前高田「図書館支援ボランティア」参加動機

佐 藤 さゆり

(文学部文学科英米文学科専修2年)

私が今回のボランティアに参加しようと思った直接のきっかけは、司書課程より配布された陸前高田市立図書館の現状に衝撃を受けたためです。地域の拠点であり、貴重な郷土資料も有していたであろう市の図書館が全壊し、司書の方も亡くなられたという事実にはショックを受けました。私は秋田県出身で、今回の震災で実際に被災した友人もいたため、震災をとて他人事とは思えずにしながら、なかなか踏み込ん

だ行動を取れずにいました。そこに、今回の司書課程派遣ボランティアのお話をいただき、陸前高田市の図書館の現状を知って、役に立つ程度の知識はないにしても、お手伝いをする頭数を増やせたらと思い応募させて頂きました。実際に図書館司書の方の下で働くことが出来るこの貴重な機会を無駄にせず、またボランティアを受け入れて下さった事にも感謝し、真摯に活動に取り組みたいと思います。

神 彩 子

(文学部文学科文芸思想専修4年)

私は以前からボランティアに興味があり、学生の身分である内に何らかのボランティアに参加して見分を広げてみたいと考えていました。にも関わらず今までボランティアに参加せずにいた理由の最たるものはスケジュール等の都合によるものですが、こと今回の東日本大震災関連のものに関していえば、それは私自身が何の技能も持っていなかったからです。震災直後に飛び交った情報の中には、阪神・淡路大震災の

際のボランティアの迷惑な行動や処分に困った寄贈品の話、また寄付先を明示せず募金活動をする団体への警告など、ボランティアに関する嬉しくない情報も多くありました。その様な状況において、私に被災地に貢献する活動ができるのか不安でした。しかし今回の活動の内容を聞き、司書課程の学生としての働きなら私にも多少は可能であろうと考え、参加するに至りました。

戸 口 有 莉

(文学部史学科3年)

3月11日、東日本大震災から早一年が経とうとしています。震災後、私自身の日常や感性が大きく変わったかといえば、特にこうなったということもなく、似たような日々を過ごしています。ですがあの日から、「情報」というモノの曖昧さ不確かさをしみじみと感じ、考え始めました。インターネット上の情報量は、慣れている人や確かな基礎知識がなければ何の意味も成しません。必要な人へ確かな情報を与えるこ

とができる図書館。「被災地の方々のために」という立派な志は持っていませんが、必要とされるモノを、必要とする人へ届けるお手伝いが出来るのであればと思い参加させて頂きました。知識はありませんが、体力はあります。足手まといにならないよう、しっかりと働かせていただきますので、どうぞよろしくお願いします。